



官民連携のチームでサポート 状況の変化に応じてミッションを設定



—熊本地震被災地における支援活動の様子—
被災地の状況の変化に合わせて、さまざまな支援活動を展開しました。

contents

P2-3 特集①

熊本地震被災地支援活動

官民連携チームによる支援活動のご報告

P6-7 シリーズ防災教育の現場から 第8回「上越市「防災教育」担当教員向け研修会」

P8 シリーズ4コマまんが「川口の夏」

P8 インフォメーション、施設のご案内、会員募集

P4-5 特集②

メモリアル回廊各館の夏の催し

夏休みにはぜひ中越メモリアル回廊・中越沖メモリアルへ！

特集① 熊本地震被災地への官民連携チームによる支援活動

平成28年4月14日、4月16日に熊本・大分地方において、最大震度7の揺れを観測する地震が発生しました。被害に遭われた方々へ心よりお見舞い申し上げます。

中越防災安全推進機構では、熊本地震の被災地において、官（＝長岡市）民（＝チーム中越）連携チームの一員として、地震直後より支援活動を行ってまいりましたのでご報告いたします。

中越地域はこれまでに中越地震、中越沖地震、7.13水害、豪雪などの自然災害を経験しました。

チーム中越は、これらの災害における被災から復興の知見や教訓を活かし、災害復旧、復興支援、災害に強い地域づくりやそれらに必要なネットワークの構築、人材育成などの活動を行っています。

第一陣（先遣隊）

四月二六日（土）～一九日（火）

【主な活動内容】

◎熊本市東区内避難所の状況把握

◎簡易更衣室兼授乳室の設置



【参加職員によるコメント】

前年度まで中越地震のメモリアル施設の運営業務に携わっており、災害発生直後の被災地での支援活動は、ほぼ未経験の状態で見地向かいました。

地震発生二日～五日後ということもあり、現地は混雑していました。行政の支援が思うように届かないなかでも、避難者の方々が自分たちで避難所を運営している姿が印象的でした。地域の普段のつながりが災害時に大きな力を発揮すると改めて感じました。

個人的には、知識としてしか知らなかった災害直後の被災地の状況をもっと知ることができ、非常に得難い経験となりました。

（地域防災力センター 松井 千明）

第二陣

四月三日（金）～二九日（金）

【主な活動内容】

◎施設管理者である教員、避難所運営責任者の熊本市、支援にあたった大阪市との打合せ

◎避難者同士の交流の場としてお茶会の開催



【参加職員によるコメント】

避難所は一見落ち着いているように見えました。お勤めされている方は昼間避難所を離れるため、残るのは子どもと高齢者といった中で、避難所の自治を進めるにも、リーダー的立場の人がいなければ、施設管理者である学校教職員にその負担がかかっているように感じました。

毎晩、全国から駆け付ける支援者同士が具体的な支援場所、支援内容を分担することでお互いの負担を減らし、継続的な活動ができるような体制や、避難者同士がお互いの状況や顔と名前を知ること、避難所生活のなかでの助け合い、支えあいができるような場を設けることは重要であると感じました。

（地域防災力センター 山崎 麻里子）

第三陣

五月四日（水）～一〇日（火）

【主な活動内容】

◎指定避難所統廃合に伴う拠点避難所（熊本市総合体育館）の整備・運営支援



【参加職員によるコメント】

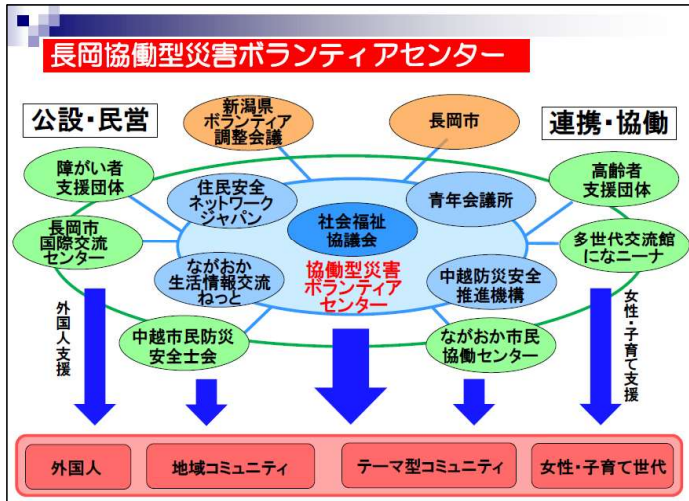
避難所の統廃合や拠点避難所の設置の決定から実施までの日数が非常に短かったために、準備に関しても非常に短期間で行わなければいけない状況でした。

そんな中でも熊本市の職員の皆さんが、過去の被災地の経験に耳を傾け、自分の与えられた仕事以上に避難所環境の改善のために奔走される姿には心打たれるものがありました。

また、避難所の設置・運営に関しては、全国災害ボランティア支援団体ネットワークやレスキューストックヤードの皆さんなど、日ごろからつながりのある支援団体の協力を得てスムーズに実施することが出来ました。

（地域防災力センター 河内 毅）

▼長岡市内の民の災害支援ネットワーク



▼官民連携チームの支援活動について

＜活動のキーワード＞

長岡でしかできない、長岡だからこそできる支援活動

＜活動の特徴＞

- 市と民間団体が有する専門知識やネットワークを相互活用することで、きめ細かい支援活動を広範囲かつ効果的に展開

- ・ 行政の災害対応支援
- ・ 支援ネットワークづくり
- ・ 外国人支援
- ・ 子育て世代支援
- ・ 避難者の心のケア
- ・ 復興支援

長岡市の各部署
中越防災安全推進機構
長岡市国際交流センター
多世代交流館になニーナ
中越市民防災安全士会、
長岡市社会福祉協議会
山の暮らし再生機構

- 避難所支援の実践の中から課題を抽出し、熊本市当局と連携して避難所運営モデルを発信
- 民間団体は経費負担や活動の制約を負うことなく、自主的に活動

▼官民連携チームの派遣状況

区分	4月	5月
長岡市	第1陣（1名） 4/16～4/19	4/25～5/7
		第2陣（4名） 5/6～5/21
チーム中越	第1陣（5名） 4/16～4/19	第3陣（4名） 5/19～5/31
	第2陣（4名） 4/23～4/29	第4陣（3名）
	（1名） 4/24～4/27（外国人避難者支援）	
	（1名） 4/28～5/5（学校再開に向けた支援）	
		第3陣（3名） 5/5～5/9
		第4陣（3名） 5/13～5/20
		第5陣（3名） 5/20～5/23

【参加職員によるコメント】
一か月経過した時点での訪問で、避難所の形態も大きく変わっていました。多くの現役世代はアパートなどに移った結果、残っているのはいわゆる「弱者」であり、狙いとしていた「自主運営」は実現困難と感じました。避難所運営について当たり前と思っていた事が当たり前で無く、現場合わせで支援を展開しなければならぬことを痛感しました。

また、混乱が続く大都市の中で、支援側と受援側とをマッチングさせることは両者による持続的・直接的な情報交換が不可欠ですが、その仕組みが形成されていた事に驚くと共に、膨大なエネルギーを要する作業であり、結果、属人的な要素が多い様に感じられ、民間と行政とでシステムを目指す必要があるように思えました。

（中越市民防災安全士会 岸和義）



【主な活動内容】
◎ 現地支援団体への避難所支援活動の引継ぎ
◎ 避難者による茶話会の設定

五月二三日（金）～二〇日（金）
第四陣

【参加職員によるコメント】
熊本地震から一か月が経ち、現地の支援団体による被災地支援活動もようやく動き出した感がありました。

中越でもそうであったように、被災地の復興を最終的に支えていくのは、現地の人々。それを後方から支えていくことが、チーム中越の役目なのだと思います。

（地域防災力センター 河内毅）



【主な活動内容】
◎ 現地支援団体との意見交換
◎ 行政、看護師、NPO間での、避難者のニーズや状況に関する意見交換会の開催
◎ 足湯ならびにサロン活動の実施

五月二〇日（金）～二三日（金）
第五陣

もよおしのごあんない

かしわざき

【シーグラス作品展】

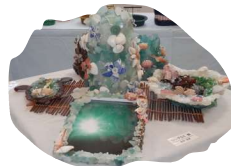
中越沖メモリアルまちからは、7月3日（波の日）から、7月末日まで、シーグラスの作品展を開催します。シーグラスとは、波打ち際に落ちていて、波に洗われたガラスや瀬戸物で作られた作品です。作者の前田美雪さんは福島から柏崎に避難され、柏崎でシーグラスに出会い作品制作を行われています。

【まちから子どもアカデミー ～この夏「できた！」がいっぱい～（仮称）】

「夏の自由研究」をテーマにしたイベントを開催します。柏崎市の市民団体による「科学・技術・伝統」など、今まで培ってきた知識を活かした、夏休みの自由研究のお助け企画です。もちろん好評の防災工作も開催します。ブースによっては有料もあります。

日時：8月6日（土）10:00～15:00

お問合せ：かしわざき市民活動センターまちから
(0257-22-2003)



やまこし

やまこし復興交流館おらたるでは、地域の任意団体である「山古志住民会議」と連携しながら、年間を通してツアー企画を実施しています。

「里山トレッキング」は、山古志地域内の遊歩道などを散策します。心地よい山風とともに、棚田・棚池をながめ、山の尾根伝いを歩き、自然と触れ合いながら進む山道は、日頃の生活から離れた開放感とおいしい空気で、リフレッシュ効果バツグンですよ！ご家族でも楽しめるように、初級、中級コースもありますので、みなさんお気軽にご参加ください。

「おらたる」では、中越地震発生から帰村までの山古志の歩みや現在の山古志について紹介をしています。

おらたるで山古志のことを知って、実際に地域に出かけてみてはいかがでしょうか！



【里山トレッキング】

第1回7月9日（土）／ 第2回7月30日（土）／ 第3回8月20日（土）／ 第4回9月3日（土）
第5回10月8日（土）／ 第6回11月5日（土） ※詳細については山古志オフィシャルHPをご覧ください。

お問合せ やまこし復興交流館おらたる（0258-41-1203） 山古志住民会議（0258-59-2301）

ながおか

【子ども向け図書コーナー新設】

長岡震災アーカイブセンター

きおくみらいでは、子ども向けの図書コーナーを新設しました！夏休みの自由研究のヒント探しや、調べ学習の手助けとしてぜひご利用下さい！

また、熊本地震被災地支援活動の報告パネル展も開催しています。

お問合せ：長岡震災アーカイブセンターきおくみらい（0258-39-5525）





とくしゅう2 メモリアルしせつ夏の

おぢや

【防災そなえチャレンジ 2016 夏休みスペシャル】

おぢや震災ミュージアムそなえ館では7月23日(土)から8月30日(火)まで、防災そなえチャレンジ 2016 夏休みスペシャルを開催いたします。

今回のテーマは災害時の「食」。災害時、ライフラインが使えない中でみなさんはどうやって生き延びますか？

そなえチャレンジで防災のこと、考えてみませんか？クリアできるといざという時に役立つ防災グッズをプレゼント！ご家族、お友達と楽しみながら学べるイベントです。みなさまのご参加、お待ちしております！



イベント受付時間：9:00～16:00（水曜休館）

お問合せ：おぢや震災ミュージアムそなえ館
(0258-89-7480)

かわぶち

川口きずな館では夏休み中の8月20日に親子を対象にしたイベントを開催します。

東川口にお住まいの上村光一さんを講師としてお迎えし、うどん作りのイベントを開催します！

どこの家庭にもある材料とキッチン用品で、本格的なうどん作りを楽しんで頂けます！

生地を寝かせている時間に外の公園で思いっきり遊び、しっかりおなかを空かせたら、自分で作った手作りのうどんをみんなで食べましょう♪

【親子で挑戦！本格釜玉うどんづくり】

日時：8月20日（土）9:30～12:30

参加費：300円

申込締切：8月17日（水）

持ち物：麺棒、ボウル

（ご家庭にあればお持ち下さい）

定員：20名程度

お問合せ：川口きずな館
(0258-89-3620)



シリーズ「防災教育の現場から」第8回 上越市教職員研修

平成25年度末に完成し、新潟県下の小中学校および関係機関に配布された「新潟県防災教育プログラム」。これをきっかけに、学校教育現場での防災教育の取組みが定着し、継続して実施されるよう、当機関紙では、シリーズ「防災教育の現場から」として、県内の小中学校での先進的な取組み事例を紹介してゆく。

上越市教育委員会主催 教員向け防災教育研修会 実施概要

○日時：平成28年5月13日（金）15：00～16：40 ○場所：上越市教育プラザ

○対象：教員72名（上越市内全小中学校 防災・安全教育担当職員）



地域防災力センターでは、昨年度から上越市教育委員会主催の教員向け研修会に講師として関わっている。今年度も市内の全小中学校の防災・安全担当の教職員向けに、防災教育に関する研修を企画・運営した。

今年度の研修は、中越メモリアル回廊のスタッフ育成も兼ねて、被災体験をしているスタッフ四人を含めた六人をゲストスピーカーとして研修の場に参画してもらった。

スタッフに語り部となつて自分の被災体験を教員に話すことで、得られる効果は二つあると考えた。一つは、スタッフが、小中学校での防災教育において、『被災体験そのものを子どもたちの学びにどのように役立てることができなのか』という、教育的接点や価値を見出すことができるという点、もう一つは、自分自身の体験から子どもたちへの教訓やメッセージに気づくことで、回廊スタッフとしての研鑽の場になるという点である。

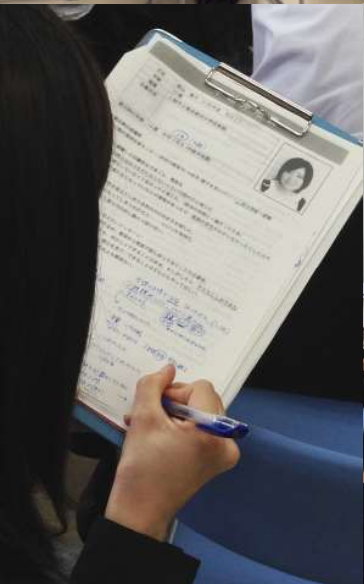
一方、教員にとっても、被災体験者と接点を持ち、直接体験談を掘り下げて聞くことで、教員自身の防災意識を向上してもらうと共に、学校でのゲストスピーカーを活用する際の授業の組み立ての参考にしてほしいと考え、今回の内容を企画した。

六人のゲストスピーカーは中越地震、もしくは中越沖地震で被災をしている。うち四人は中学生・高校生の時に被災を経験したこともあり、児童や生徒に近い目線で体験談を話

すことができ、子どもたちに伝わりやすいという利点がある。

ゲストスピーカーは、中越大震災の被災者である、畔上凌（やまこし復興交流館おらたるスタッフ：当時一三歳）、細貝悠斗（おちや震災ミュージアムそなえ館スタッフ：当時一四歳）、赤塚千明（川口きずな館スタッフ：当時一五歳）、高野真弓（元おちや震災ミュージアムそなえ館スタッフ：当時三七歳）と、中越沖地震の被災者である、庭山倫子（上越市春日新田小学校教諭：当時一四歳）、会田理恵子（かしわぎき市民活動センターまちからスタッフ：当時四一歳）の、計六人にお願した。庭山さんはメモリアル回廊スタッフではないが、かしわぎき市民活動センターまちから“の地下で見ることのできるシアター映像に登場していること、そして現在、上越市の小学校教員であるという縁もあって、お声がけをした。地元の柏崎市で被災し、避難所での教員の対応を見て、教員を目指したというエピソードを持っている。

被災体験と一口に言っても、それぞれ被災した年齢や状況、立場はさまざまである。またゲストスピーカーとしての経験や、日々の仕事内容もそれぞれ違っており、各人が持っている思いや地震から得た教訓も一様ではない。ゲストによる一人一分ずつの自己紹介と、教員にあらかじめ配布しておいたゲストプロフィールシートを元に、自分が話を聞きたいゲストを選択してインタビューを実施した。



ゲスト一人に対して、教員二、三名でグループになってもらい、もっと詳しく聞きたいこと、掘り下げて聞いてみたいことがあるれば、ゲストに自由にインタビューをする、いわゆる囲み取材形式をとった。各学校に配布してある新潟県防災教育プログラム地震災害編を持参してもらい、「選択一丸：地震災害の話」を聞く」を参考にして、インタビューをした。教員は、ゲストの被災体験から子どもに学んでほしいことを考える過程で、防災教育で教えるべき大切なポイントを生きた教材から直に学ぶことができるわけである。

初の試みであったため、反省点は多々あった。予期せぬハプニングも起こった。しかし何よりもゲストスピーカーと教員を直にひき合せてことによる反響はとても大きかったと感じる。研修内容について、「大変有意義」もしくは「有意義」と感じていただいた教員は全体の九割に上った。

以下に教員からのアンケート記述を抜粋する。
◆ニュースや新聞には載らない大事なことを伺えて大変勉強になりました。防災への意識が校内でもさらに高まるよう防災教育を行っていきます。

◆被災された方のお話を伺うことができ、大変有意義でした。コミュニケーションの大切さ、命の大切さ、そして子どもたちに伝えたいことと盛りだくさんでした。私自身、更に防災教

育を深く追求していきたいと思いました。

◆ゲストを講師に迎えることを想定した指導を、集まったメンバーで考え創り出すという研修やその持ち方も今後の方法として勉強になりました。

◆こうしたワークショップが校内でできたら良いと感じた。

以上のように、被災者と直にやりとりしたことから引き出されるエピソードや、教育者として生きた教育資源を子どもの学習にどう活かすのか、というテーマでワークショップを実施したことが、研修会の内容としては新鮮に映ったようである。

また、ゲストにとっても教員とじっくり向き合える機会は、非常に貴重な体験であったようであり、この経験を日々の仕事に生かしていただければと願っている。

今後とも、子どもたちの学習に直接かわるだけでなく、教える先生方の熱意に込められるようなサポートを通し、中越メモリアル回廊のスタッフ一丸となって、新潟県の防災教育の推進の一助となるよう努めていきたい。

(地域防災力センター 関谷 央子)

「インフォメーション」

【今年も中越市民防災安全大学を開校します】

中越市民防災安全大学は、「安全」や「防災」をテーマに、専門的な知識や災害時に役立つノウハウや実技を学び、被災現場を視察できる連続講座として、多くの方々にご聴講いただくことで、防災に関わる人材のすそ野を広げ、地域の防災活動や災害時に活躍できる人材、災害や防災の知識・教訓等を語り継げる人材を育成することを目的としています。

11 期目を迎える今期は、内容を充実させるとともに、開催期間を 8 月 20 日、21 日、27 日、9 月 3 日、4 日の 5 日間に短縮し、より参加しやすい日程としています。詳しくは機構 HP をご覧ください。



【スタッフユニフォームを制作・寄贈いただきました】

中越市民防災安全会初代会長であり、当機構の会員でもある廣川誠次郎様より、全職員分のスタッフユニフォームを寄贈いただきました。

◆廣川様よりコメント

産官学民の民として、個人としての存在はもちろんのこと、自治会やコミュニティ、企業や NPO といった団体としても、まちづくりを進める上で民は大切な役割を担っています。

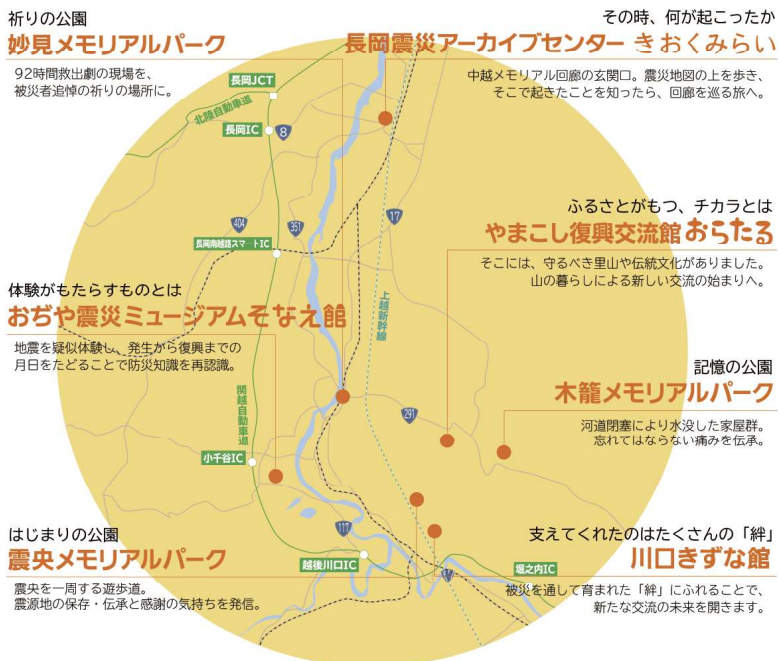
「地域情報の収集に努める」「地域活動に参加する」「市民活動や社会貢献活動に参加する」を標榜し、安心・安全の地域づくりに日夜奮闘する機構の精鋭スタッフにユニフォームを寄贈させていただきました。

◆デザイン・制作

株式会社 キョーワ
長岡市西新町 2-5-24
TEL0258-33-6622



「中越メモリアル回廊全体図」



会員募集中！

当機構では、地域防災への取り組みや被災地への支援活動に賛同し、応援して下さる会員の方を募集しています。皆様のご入会をお待ちしています。

参加資格：当機構の活動に関心のある 18 歳以上の方なら、どなたでも参加できます。

会員特典：当機構が主催する研修・講座・イベント等のご案内をいたします。

年会費：正会員 5,000 円 個人賛助会員 3,000 円 団体賛助会員 100,000 円 (1 口以上)

※申込書は当機構ホームページよりダウンロードできます。

公益社団法人 中越防災安全推進機構 機関紙 <COSSS report> 第 15 号 2016 年 8 月発行

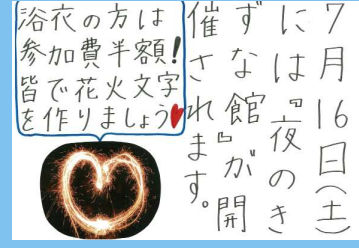
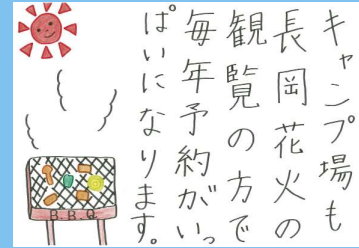
発行人：諸橋和行 編集：畔上凌 阿部巧 関谷央子 中村充 松井千明

〒940-0062 新潟県長岡市大手通 2-6 フェニックス大手イースト 2F 長岡震災アーカイブセンター・きおくみらい内

TEL: 0258-39-5525 FAX: 0258-39-5526

E-mail: info@c-bosai-anzen-kikou.jp http://c-bosai-anzen-kikou.jp/

きずな館看板娘がおくる かわぐちの日常 4 コマ



まんがの作者



川口きずな館
新人スタッフ
大淵 朝香

施設のご案内

長岡震災アーカイブセンター きおくみらい

〒940-0062

新潟県長岡市大手通 2-6 2 階

開館時間 平 日 10:00 ~ 18:00

土日祝 10:00 ~ 17:00

休館日 毎週火曜日 年末年始

TEL 0258-39-5525/FAX 39-5526

.....

おぢや震災ミュージアム そなえ館

〒947-0026

新潟県小千谷市上ノ山 4-4-2 2 階

開館時間 9:00 ~ 17:00

休館日 毎週水曜日 年末年始

TEL 0258-89-7480/FAX 89-7485

.....

川口きずな館

〒949-7503

新潟県長岡市川口中山 1441

開館時間 10:00 ~ 17:00

休館日 毎週火曜日 年末年始

TEL 0258-89-3620/FAX 89-3621

.....

やまこし復興交流館 おらたる

〒940-0204

新潟県長岡市山古志竹沢 2835

開館時間 9:00 ~ 17:00

休館日 毎週火曜日 年末年始

TEL 0258-41-1203/FAX 41-1204